

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 1/6

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	105分
-----	--------------------	------	------

ことばが人の心を支配し、動かしていくことについて論じた文章からの出題。昨年と同じく、記述問題4題と内容合致問題が出題された。昨年出題された抜き出し問題は出題されなかった。昨年と比べて記述量がやや増加し、解答がまとめづらい問題もみられたが、全体としての難易度は昨年並である。

<本文分析>

大問番号	<input type="text"/>
出典 (作者)	『1人称単数の哲学』(八木雄二)
頻出度合 ・的中等	普通
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 昨年は3666字、今年は3941字で275字増加
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
<input type="text"/>	評論	問一	漢字の読み書き	標準	特に難しいものはない。
		問二	記述	やや易	傍線部の直前の段落の内容をまとめればよい。
		問三	記述	標準	傍線部のある段落とその前2つの段落の内容をまとめればよい。
		問四	記述	やや難	3段落前の内容も踏まえて答える必要がある。解答がややまとめづらい。
		問五	記述	やや難	本文前半の内容も踏まえて考えなければならない。解答がややまとめづらい。
		問六	客観	易	本文の内容に合致するものを2つ選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 2/6

<学習対策>

問題集や過去問を利用して、評論に触れて読解力を養うとともに、記述問題の練習を十分に積んでおくこと。
漢字の読み書きについても対策を怠らないようにしておくこと。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 3/6

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	105分
-----	--------------------	------	------

江戸時代中期の怪異物語集、荒木田麗女の『怪世談』からの出題。久々の近世、物語の出題であった。文章量は昨年と比べてかなり増加したが、話の流れはつかみやすい文章であった。設問は、傍線部が文法問題(品詞分解)3箇所、現代語訳の問題3箇所、心情の説明問題3箇所と和歌の内容を含む理由の説明問題2箇所、記述量がかかなり多くなったため、時間的な余裕がなかったかもしれない。頻出の和歌は、近年は現代語訳の問題が多かったが、説明問題として出題された。また、説明問題に関しては、どの程度まで説明を行えばよいか、悩んだ受験生も多かったと思われる。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	『 ^{あやしのよがたり} 怪世談』(荒木田麗女)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は937字、今年は1526字で589字増加。
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	物語	問一	記述	標準	文法問題。品詞分解の問題が3問。助動詞の説明がポイント。
		問二	記述	標準	説明問題。「なぜそのようにするのか、心情を説明」する。3問とも直前部に注目し、丁寧に説明することが必要。
		問三	記述	標準	現代語訳の問題。3問とも重要単語、文法(助動詞など)の正確な訳のほか、人物や内容の補い、指示内容の具体化などに気を付ける。
		問四	記述	やや難	歌の内容を踏まえた理由説明の問題。Aは、歌の後半部と「真木の柱は」の注の歌を、Bは、歌と二重傍線部の直前部を踏まえた説明をする。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要古語・文法の知識を基礎とした現代語訳の力をつけることが、大切である。その際、逐語訳だけでなく、主体の補いなどに注意を払い、わかりやすい現代語訳になるよう意識することが必要である。また、和歌に関する問題は頻出である。現代語訳、心情や具体的内容を把握する練習に加えて、和歌修辞や比喻表現の理解も深めておきたい。記述量の多い要約・説明問題については、実際に書いてまとめる練習を積んでおくこと。文法や文学史も出題されることがあるので、対策を怠らないこと。過去の問題を解いて名古屋大学の出題形式に慣れておくとうい。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 5/6

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	105分
-----	--------------------	------	------

本文は、『夢溪筆談』からの出題で、宋代の政治家王旦についての逸話である。本文の文字数は266字で、昨年より9字減少した。設問数は昨年同様6問だが、2問で枝問が作られて記述量は増えた。例年通り、語の読み・現代語訳・書き下し文・内容説明・150字の説明問題が問われたが、昨年は3問あった説明問題は2問になり、現代語訳は昨年の1問から4問に増加した。問六の150字の人物像をまとめる問題は、本文の具体的な話を要領よくまとめるのが難しい。

<本文分析>

大問番号	㊦
出典 (作者)	『夢溪筆談』巻九「人事」(宋・沈括)
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 昨年は275字、今年は266字で9字減少
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
㊦	史伝	問一	記述	易	語の読みの問題。「幾何(いくばくぞ)」「暫(しばらく)」「復(また)」はいずれも基本的な語。
		問二	記述	やや易 標準	解釈の問題。「其」は「王文正」を指す。 内容説明の問題。「家人」の具体的な行動として傍線部の後の「以少埃墨投羹中」「又墨其飯」をおさえる。
		問三	記述	標準 標準	書き下し文の問題。受身形「為～所一」がポイント。 解釈の問題。受身形「為～所一」(～に一される)と動詞「私す」(自分のものにする)を踏まえる。
		問四	記述	やや易	解釈の問題。「過(過失)」「発(摘発する)」の意味に注意する。
		問五	記述	標準	解釈の問題。「其」は「馬の口取り」を指す。限定形「但～」と否定形「未嘗～」、「乃是～也」「方」の意味に注意する。
		問六	記述	やや難	内容説明(150字以内)。各段落の具体的な逸話から「王文正」の人物像について、①度量が大きい、②身の回りのことに無関心である、という点を踏まえてまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

国語(現代文・古文・漢文)

名古屋大学 文学部、教育学部、経済学部 (前期) 6/6

<学習対策>

重要語や句形を問う問題は必ず出題されるので、これらの基礎知識に習熟すること。300字程度の長文が出ることも多いので、日頃から長文を数多く読むように心掛けたい。現代語訳、書き下し文、内容・理由説明の問題は、二次対策用の問題集や過去問などで訓練しておくのがよい。150字の説明問題の対策として、漢文を読んで要約する練習を心掛けるとよいだろう。